

I . 業績概要

平成28年度中間決算のポイント

預貸金

収益の基盤となる預金残高・貸出金残高は、ともに堅調に増加

・ 預金+NCD残高	7兆3,419億円	(前年同期比 +1,058億円)
うち個人	4兆2,983億円	(前年同期比 +714億円)
うち法人	2兆255億円	(前年同期比 +1,661億円)
うち金融・公金	1兆179億円	(前年同期比 △1,317億円)
・ 貸出金残高	4兆7,436億円	(前年同期比 +3,431億円)
うち中小企業等貸出	3兆2,292億円	(前年同期比 +1,461億円)

収益

中間純利益は連結・単体ともに100億円を確保 (前年同期)

・ 中間純利益 (単体)	101億円	(132億円)
・ 親会社株主に帰属する中間純利益 (連結)	106億円	(137億円)

2. 平成28年度中間決算概要

(単位:億円)

	27年度 中間	28年度 中間	前年同期比
業務粗利益	462	421	△41
資金利益	377	326	△51
役務取引等利益	48	45	△3
その他業務利益	36	50	14
うち国債等債券損益	30	46	16
経費	288	295	7
業務純益	173	125	△48
コア業務純益	143	79	△64
臨時損益	21	17	△4
うち不良債権処理額 (A)	3	0	△3
うち貸倒引当金戻入益 (B)	5	6	1
うち株式等関係損益	5	4	△1
経常利益	194	143	△51
特別損益	0	△0	△0
中間純利益	132	101	△31
信用コスト (A)－(B)	△2	△5	△3

<参考>

親会社株主に帰属する中間純利益	137	106	△31
-----------------	-----	-----	-----

業務粗利益

貸出金残高は大幅に増加したものの、運用利回の低下により、資金利益が減少

経常利益・中間純利益

業務粗利益の減少を主因として、経常利益、中間純利益ともに減少したものの、中間純利益は100億円台を確保

3. 平成28年度決算見通し

(単位:億円)

	27年度	28年度 (予想)	前年度比
業務粗利益	864	809	△55
資金利益	704	639	△65
役務取引等利益	89	94	5
その他業務利益	70	76	6
うち国債等債券損益	60	68	8
経費	572	588	16
業務純益	292	221	△71
コア業務純益	232	153	△79
臨時損益	21	30	9
うち不良債権処理額 (A)	5	3	△2
うち貸倒引当金戻入益 (B)	9	3	△6
うち株式等関係損益	△0	5	5
経常利益	314	251	△63
当期純利益	204	175	△29
信用コスト (A)-(B)	△4	0	4
<参考>			
親会社株主に帰属する当期純利益	213	181	△32

業務粗利益

マイナス金利政策により、貸出金・有価証券などの運用利回低下による資金利益の減少を見込むが、預かり資産の販売強化等による役務取引等利益の増加を計画

経常利益

業務粗利益の減少に加え、経費の増加を見込み、減益計画

当期純利益

現中計の目標利益(最終年度)である175億円の達成を目指す